

TOPPAN

SOCIAL BUSINESS NEWS

Vol.2

Special feature

ヘルスツーリズム

地域に眠る「健康資源」を呼び覚ます





Nature Visits



Spa & Beauty



Healthy Food

Special feature

ヘルスツーリズム 地域に眠る「健康資源」を呼び覚ます

ヘルスツーリズムとは、健康の増進や回復につながる旅行のこと。温泉療法、森林療法や海洋療法など、自然豊かな土地でリフレッシュして心身の健康回復を図ります。「なんとなく身体に良さそう」という曖昧なものではなく、科学的根拠に基づいていることが大切で、日本では認証制度への取り組みも動き出しています。一方で、ヘルスツーリズムは実施する地域に新たな観光の切り口をもたらすものでもあります。プログラムの開発に伴う産業と雇用の創出、そして新たな誘客による交流人口の増加が期待されています。また近年では、健康経営企業の社員に向けて運動や休養、食生活といった健康への気づきに活用される動きが出ています。



Mindfulness



Health Check



Sports Activity

Interview

ヘルスツーリズムの主演は人と地域 地域資源の活用で 産業の創出と経済の活性化を図る

旅は、心と身体を健康へ導いてくれるもの。豊かな自然環境を活用するヘルスツーリズムは、地域活性化につながるものとして期待されています。日本ヘルスツーリズム振興機構の高橋事務局長に、ヘルスツーリズムとは何か、そして日本で普及するために必要なことを聞きました。



古代から育まれてきた癒やしの旅

古代ギリシャ時代には、けがや病気を癒やすために泉の近くに行ったり、気候のいい場所で保養するということが行われていました。こうした行為にはその場所へ行く「旅」が伴っており、これが学術的にはヘルスツーリズムの発祥と言われています。日本では奈良時代に温泉を活用した「湯治」が行われており、江戸時代には温泉旅行が庶民にも普及しました。現在、欧州では温泉療法や海洋療法、気候療法など環境を利用した医療が研究され、ヘルスツーリズム市場が活性化しています。中には、ヘルスツーリズムの利用時に健康保険が適用される国もあります。

日本でも地域活性化の動きや健康志向の高まりを受けて、自然環境に恵まれた地域では、ウォーキングなどの「運動」や温泉での「休養」、新鮮な素材を活かした栄養バランスの良い「食事」などを組み合わせたプログラムが次々に開発されています。また、旅行も単なる観光地巡りではなく、より地域に深く入り込んだ体験型の旅行が好まれるようになっており、観光庁が主導するニューツーリズム^{※1}でも地域が主役の着地型観光^{※2}が主流になりつつあります。

健康への気づきと行動変容を促す

ヘルスツーリズムでは、旅行という非日常的な楽しみの中で、健康回復や健康増進を図ります。しかし、ただ単に自然の中でウォーキングをしたり、新鮮な素材で作られた食事をしたりというだけでは一過

「ヘルスツーリズム」の定義

健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まですべての人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進(EBH: Evidence Based Health)を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与するもの(日本ヘルスツーリズム振興機構)

性的のもので終わってしまいます。大切なのは、旅をきっかけに身体や食事に対する意識が変わり、継続的に運動に取り組むようになることだと思います。こうした「行動変容」がヘルスケア産業の最大の目的であり、健康的なライフスタイルへの気づきとなること、セルフ・エフィカシー^{※3}を高めることがヘルスツーリズムの役割といえます。旅行中は一人でなく仲間がいることも、その効果を高めると考えられています。

欧州では、ヘルスツーリズムの品質を保持するための認証制度に取り組んでいる国もあり、どの施設でどのようなサービスが受けられるのかが分かりやすく開示されています。その審査基準は、地元の雇用を85%以上にする、半径100キロメートル内の地産食材を活用するなど厳しいものですが、高難度の認証を取得することによって、より質の高いサービスを提供することが可能になり、サービスに従事するスタッフのモチベーションが高まることも期待できます。もちろん、これにより施設・プログラムの集客効果も高まるかもしれません。リピーター率が70%を超える施設もありました。高い認証を獲得することによって人気が高まり、ヘルスツーリズムのマーケットはどんどん拡大しています。

鍵は地域の「人づくり」

日本でも2017年秋頃に、経済産業省によるヘルスツーリズムの認証制度が開始されることになっており、来訪者、事業者双方にとってメリットがある認証を目指しています。今後、来訪者を拡大するためには、その施設やサービスを利用することが、どの程度健康的な生活に寄与するのを示す科学的な根拠、施設の安全性といった消費者が信頼できる指標が必要です。なんとなく身体に良いというのは、リピーターを振り起こすことではできません。生活習慣病予防のプログラム「スマート・ライフ・ステイプログラム^{※4}」のようなターゲットや目的を明確にしたプログラムもあります。どのような旅行が自分にふさわ

健康維持・増進に欠かせない3要素



しいのかという選択をするための基準があると、行ってみたいという気持ちの喚起につなげることができるかもしれません。

一方、受け入れる地域では、旅行商品として選ばれるための信頼できるブランドづくりのほか、品質、効果、サービスの見える化などが必要でしょう。「まちおこし」して捉えてみても、単に良い環境や食材を提供するだけでなく、来た人に楽しんでもらえる「仕掛けづくり」や、地域との交流を促す地元のアドバイザーやボランティアなどの「人づくり」も重要です。ヘルスツーリズムに取り組む地域に求められているものは何かというマーケットインの発想で、顧客ニーズを汲んだ商品設計を行ってほしいと思います。

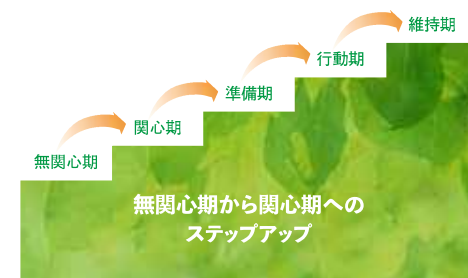


NPO法人
日本ヘルスツーリズム振興機構
事務局長

高橋 伸佳さん

- ※1 従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気づかれていなかった地域固有の資源を新たに活用し、テーマを持った体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態。エコツーリズム、スポーツツーリズム等がある。観光庁が定義し、主導・支援している。
- ※2 旅行者を受け入れる地域(着地)で作られる旅行商品。対して、旅行会社が企画販売する旅行商品を発地型商品という。
- ※3 Self-Efficacy / 自己効力感。心理学者のアルバート・バンデューラが提唱した心理学用語。その人の持つ目標や成果の達成に関する、自己能力への確信と信頼を意味する。
- ※4 厚生労働省が公募する、宿泊型新保健指導プログラム。生活習慣病の予防を目的に、民間の宿泊施設や観光資源を活用し、入院と同様の結果を出せる健康指導プログラムを行う。プログラムは保健師、健康運動指導士、管理栄養士等が多職種で連携して開発する。

ヘルスツーリズムに期待される「行動変容」



出典: 日本健康教育士養成機構「新しい健康教育～理論と事例から学ぶ健康増進への道～」
保健同人社 大津一義先生執筆部分を引用改変

注目
すべき

Guide to Health tourism facilities

ヘルスツーリズム先進事例

Rogner Bad Blumau

(ログナー バード ブルマウ)

オーストリア シュタイアーマルク州

Best Health Austria※の 厳しい判定基準をクリア

温泉地区の40ヘクタールもある広大な土地に立つログナー バードブルマウでは、ボディケア、マッサージ、アンチエイジングプログラム、ヨガ、ウォータースポーツなどが体験できます。700名の宿泊可能数に対して総従業員数は330名で充実したサービスを受けられる態勢も整っており、年間の宿泊客は約17万人にもおぼり、その70%がリピーターです。周辺の食材を活用するなど地産地消を実践しています。

※オーストリア品質推進協会が認証するサービス品質保証。8項目からなる判定基準をすべてクリアしなければならない。2016年9月現在、20施設が認証されている。



ユニークなデザインのホテルと屋外スパが非日常感を演出

●所在地
Bad Blumau 100, 8283 Blumau In Steiermark,
Steiermark, Austria
●URL
<http://www.blumau.com/>

Sukko Spa Resort

(スッコ スパリゾート)

タイ プーケット

独自のタイ文化体験プログラムも提供する 癒やしのスパ・リゾート

心身のリラクセスに最適な環境が揃うスッコ スパリゾートでは、タイ古式マッサージなどのほか、タイ料理の教室やスパ施術などタイ文化を体験するプログラムを用意しています。また、天然素材だけで作られたオイルを使うトリートメントや、オーガニック素材を使用したヘルシーな食事なども特徴的です。800時間のトレーニングを積んだセラピストによる施術が人気で、海外からの来訪者も多く、日本人スタッフも常駐しています。



緑あふれる優雅なスパ施設、レストランでは新鮮な食材を使用した健康的な料理を提供

●所在地
5/10 Moo 3, Chaofa Rd., Amphur Muang Phuket 83000, Thailand
●URL
<http://www.sukkospa.com/>

熊野セラピー

日本 和歌山県

世界遺産「熊野古道」で 健康ウォーキング

世界遺産「熊野古道」では、参加者の時間と体力に合わせた「熊野古道健康ウォーキング」を実施しています。健康ウォーキングでは、同行する熊野セラピスト(インストラクター)によるウォーキング指導や、語り部による歴史文化の解説も好評です。また、地形療法を活用した滞在型のスローステイプログラム「熊野セラピー」を提供しており、来訪者の健康生活への動機付けと、周辺地域の活性化という2つの側面から「熊野健康村構想」を推進しています。



「熊野古道健康ウォーキング」は定期プログラムとして毎月1回実施

●所在地
和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 世界遺産熊野本宮館内(熊野で健康ラボ事務局)
●URL
<http://www.kumano-de-kenko.com/>

ルスツリゾート

日本 北海道

大自然の中で専門医監修の プログラムを提供

ルスツリゾートでは「北海道カラダ休暇」と銘打ち、専門医監修のもとで休暇を活用したアンチエイジングプログラムを実施しています。新鮮な食材を使った北海道グルメ、広大な自然を利用したスキーやゴルフ、乗馬など、1年を通じて約70種類のアクティビティの利用が可能で、雄大な自然の中で、楽しみながら心身ともにリラックスできる環境が整っています。



北海道の豊かな環境を活かした滞在型のプログラムが充実

●所在地
北海道虻田郡留寿都村字泉川113
●URL
<http://rusutsu.co.jp/>

心も身体も健康になる旅に出よう！ —内なる野生を取り戻す—

2016年6月、群馬県みなかみ町とトッパンは、健康増進を図るヘルスツーリズムに関する協定を締結し、みなかみ町とともに新事業のサービス開発に向けた活動を始動しました。



地方と都市をつなぐ健康モデルの開発

「関東の水がめ」と称される、自然豊かなみなかみ町。四季を通じてアウトドアレジャーが盛んで、スポーツアクティビティを楽しむ人たちの間では広く知られています。その一方で、食や温泉については十分に魅力をアピールできておらず、観光客のさらなる誘致に課題を抱えていました。

都市に目を向けると、ストレスフルな生活環境により、将来の健康に不安を抱える人が多くいます。みなかみ町は都心から車で約2時間の距離にあり、短期滞在で心身をリフレッシュするヘルスツーリズムの場として最適です。トッパンではこれまでのヘルスケア分野の取り組みを踏まえ、みなかみ町との共同事業「みなかみヘルスツーリズム GO WILD!プロジェクト」を立ち上げ、「運動」「休養」「栄養」という健康三原則のほかに、みなかみ町が持つ自然環境を組み合わせたプログラムを構築、ツーリストの内なるバイオリズム(=生命力)の回復を目指しています。

プロジェクトではまず、みなかみ町に眠っている自然資源をヘルス

ケアの視点から評価・再編集し、モデルツアーを開発しました。モデルツアーは、「食」を含む新たな産業の創出、ヘルスツーリズムに必要な職種の開発や人材育成にもつながりました。観光客だけではない交流人口の増加も、ツアーを開発した狙いの一つです。

プロジェクトコンセプト定義

また、ヘルスツーリズムのターゲットである都市生活者に対しては、丸の内朝大学*を活用し、疲れの本質や腸内環境等をテーマに取り上げ、働き方・暮らし方について学ぶ機会を設けました。ここでは、『時間に追われすぎたライフスタイルを見直し、自律神経を整える』ことにフォーカスし、中高年に対するメタボ予防やアンチエイジングを意味するヘルスとは異なる視点でみなかみヘルスツーリズムが持っていること、さらには、「内なる野生」を取り戻せ=GO WILD!というコンセプトへの理解を深めていただきました。コン

*東京・大手町、丸の内、有楽町全体をキャンパスとした市民大。2009年開講。出勤前の時間を活用して朝7時から講座を開いている。

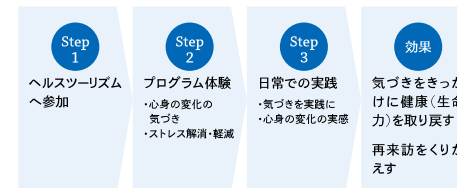
ディションを整え、疲労回復を促す極意を学ぶことは、健康に対する前向きな姿勢や意欲向上にもつながります。

運動前後のデータ蓄積・分析に基づく成果の見える化

丸の内朝大学の実施後、秋と冬にはモニターツアーを行いました。ツアー中の試みとして、参加者に対し、トレッキング(秋)やスノーシュー(冬)、温泉入浴後などに自律神経バランスを計測し、これらの数値を提示することで、成果を実感してもらいました。運動の取り入れ方や日々の生活の見直しを通じて、健康への取り組みを一過性で終わらせないことを目指しています。

参加者からは「運動が身体と心の健康につながると理解できた」「自律神経の知識を深めることができた」「自分に合った運動習慣を身につけたい」などの声をいただきました。また、アンケートの集計結果では、参加者の9割以上が「健康への意識」に関心を持ち、7割近くが「年に1回~数回」みなかみ町を訪れたいと答えています。今後は、運動だけでなく、栄養・休養プログラムも組み合わせ、心身の変化への気づきと行動変容に結びつくサービス開発を行っていきます。

ヘルスツーリズム参加フローと効果



自然の生態系に恵まれた水の源、みなかみ

みなかみ町は群馬県の最北に位置し、谷川連峰・三国山の麓、利根川の源流域であり自然と温泉が豊かな町です。18の温泉を有し、古くからの湯治場としても知られています。また、雄大な自然のもとで四季折々に楽しめる多彩なアウトドアスポーツの拠点でもあります。2017年6月には、「みなかみユネスコエコパーク」が、ユネスコの認める生物圏保存地域に登録されました。都心から車で約2時間、東京駅から上越新幹線で約1時間と、交通アクセスの点でも恵まれています。

総人口は19,645人(2017年5月1日現在)、広さは群馬県で最も広い781.08km²。

トッパンのサービスメニュー

「印刷テクノロジー」を核にしてさまざまな事業分野で培われた「マーケティング」「コンテンツ」「クリエイティブ」といった3つの機能を活かし、調査・プログラム開発・地域ブランディングまでの業務を支援していきます。



今後の展開

セルフケア・パーソナルコンディションをモニタリングする仕組みの提供

みなかみヘルスツーリズム
GO WILD!プロジェクト

コンディションデータを検証

ウォーキング、マインドfulness、温泉、食事から成るモニターツアーでは、自律神経に着目してデータを取得・分析

モデルツアー開発と情報発信

丸の内朝大学の実施に加え、Webや雑誌で情報を発信
<https://www.turns.jp/read/4669>

みなかみフードラボ

「発酵食品」「地元の食材」「デトックス食材」の3つのキーワードからメニューを開発

人材育成

初年度は「健康ウォーキング指導士」養成講座で13名の有資格者が誕生

受け入れ態勢の整備

パンフレット作成のほか、「新日本歩く道機構100選シリーズ」と連携しウォーキング愛好者にアピール

トッパンの地域活性化に向けた取り組み

まちづくり



VRによる新たな観光資源とにぎわいの創出 VR作品『熊本城』

トッパンは、地域のさまざまな文化資産を高度なデジタル技術で再現し、地域の観光資源として活用できる「デジタル文化財」の提供を推進しています。2016年4月に発生した熊本地震により大きな被害を受けた熊本城もその一つです。

VR（バーチャルリアリティ）作品『熊本城』は、2011年にトッパンが地元企業群とともにPFI*事業として開設した、熊本城の歴史文化体験施設「桜の馬場 城彩苑 湧々座」で公開するために制作したものです。

高精細なデジタル再現

制作の際には写実性にこだわりました。熊本城の平面形状と柱割、立面意匠を把握するために古図面を参照したほか、宇土櫓や天守閣などの建造物や石垣を詳細にデジタル撮影。約4万枚におよぶ撮影画像を活用し、忠実に再現しています。

湧々座も熊本地震の被害を受けて一時閉館しましたが、2016年10月に再開。熊本城は現在も出入りできませんが、湧々座で上映さ

れるVR作品を通して、観光客へ熊本城本来の勇壮な姿と、復旧へ向かう現在の様子を伝えています。多くの観光客に足を運んでいただけており、満足度の高い観光コンテンツを提供しています。

デジタルアーカイブデータを石垣復旧作業に活用

VR作品の制作時に収集したデータは、それ自身が地域の有用な文化資源となります。現在、トッパンが保有する被災前の櫓や石垣を撮影した約4万点の画像と、熊本大学が開発した「石垣照合システム」を融合させ、崩落した石材の元の位置を推定する取り組みが始まっています。

被災前の姿を取り戻すには約20年かかるとされる熊本城。トッパンは復旧現場における作業の効率化を実現し、一日も早い復旧・復興に貢献することを目指します。

*Private Finance Initiativeの略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金と経営能力、技術的能力を活用して公共事業を行う手法のこと。



臨場感あふれる映像で、江戸時代の熊本城ヘタムスリップ

VR作品『熊本城』
製作：熊本城観光交流サービス株式会社
制作・著作：凸版印刷株式会社



熊本城に隣接する「桜の馬場城彩苑 湧々座」でVRを上映

人づくり



地域定住を目指した人づくりプログラム 「しごとしらべ」

トッパンは東京書籍株式会社と共同で、小中高生の地域産業への理解を深め、地元の就業者確保を図るプログラム「しごとしらべ」を展開しています。このプログラムは、将来を担う子どもたちが地域の産業を知り、地元へ愛着を抱き、子ども目線で地域の魅力をPRし、将来的に地域の担い手となって力を発揮してくれることを支援する地方創生の取り組みの一つです。

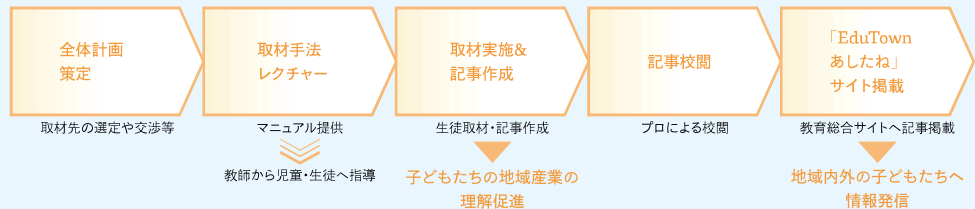
具体的には、授業を通じて取材の手法や記事の書き方を学んだ、児童・生徒自らが地域に暮らすさまざまな事業者を取材し、その仕事の魅力を記事にまとめ、東京書籍の教育総合サイト「EduTown あしたね」*で発信します。トッパンおよび東京書籍が取材の支援、

教師に向けた取材マニュアルの提供、記事校閲・編集、記事の掲載までをトータルでサポートしており、キャリア教育の一環として活用いただいています。

また、掲載記事は冊子、イベント、Webサイトなどへの二次利用も可能で、地域のPRとして用いることができます。子どもの視点によってまちの魅力を幅広く発信することで、地域のにぎわい創出にも貢献します。

*東京書籍が運営する教育総合サイト「EduTown」内にある、キャリア教育・職業調べに特化したサイト。楽しく学べる工夫が盛り込まれ、全国約6,600の小中高校で先生と児童・生徒合わせて約100万人が利用しています(2017年3月末時点)。

「しごとしらべ」サービス提供範囲



「EduTownあしたね」のトップページ
<https://ashitane.edutown.jp/>



ソーシャルビジネスセンターについて

トッパンは1900年の創業以来、「印刷技術」を進化させると同時に、事業分野の拡大に努め、事業活動を推進する中で培われたマーケティング力、IT力、クリエイティブ力などのさまざまなナレッジを深耕することで、印刷だけではなく、調査分析、戦略策定から商品開発、コミュニケーションのプランニング、実施に至るまでの幅広いソリューションを提供してきました。

Advantage ①

マーケティング戦略策定、コミュニケーション企画立案・制作・実施までの一貫体制

Advantage ②

最先端のセキュリティ技術による媒体製造、個人情報管理などの現場運用力

Advantage ③

印刷に限らず、映像、VR、他言語対応など総合的なコンテンツ制作、管理、加工技術

近年、少子高齢化やまちづくりなどの社会的課題が大きくクローズアップされる中、政府が中心となり、地域サービスや社会インフラの再構築が進められています。また自治体においては、個人番号カードが導入されて行政サービスの電子化が進み、市民目線でのサービスイノベーションが今後ますます期待されます。

これまでの強みをベースにしながら、こうした社会課題に対応するビジネス創出機能を有するのが「ソーシャルビジネスセンター」です。さまざまな社会実証のノウハウと、省庁や有識者などからの情報・ナレッジを集約し、多種多様なプレイヤーをまとめるコーディネート力を駆使して、運用までを見越したトータルソリューションを提供していきます。

Social Business Center

産官学 ネットワーク

さまざまな実証事業を通じて培った有識者ネットワークと幅広い取引先との協業実績

自治体ソリューション 開発力

関係省庁の施策内容等に精通した専門スタッフが課題に即したソリューションを開発

全国規模の PDCA

国内外の成功事例の分析や検証を行うことで最適な施策をご提案

Business field

健康・ライフサイエンス

ヘルスケア

介護

子育て

教育・文化交流

スポーツ

文化芸術

教育

都市空間・モビリティ

観光

ICT
まちづくり

防災

エネルギー・食料資源

環境

食
農業

エネルギー

地方創生をはじめ地域包括ケア、言語・文化の相互理解、観光振興、ICTまちづくりなど社会課題に対し積極的に取り組んでいきます



お問い合わせ

凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 ソーシャルビジネスセンター

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3 MAIL sobc_news@toppan.co.jp

Social Business News Vol.2

発行/凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 発行責任者/阿部一也
発行日/2017年8月

※本掲載記事の無断転載を禁じます。